

農薬名	成分名	系統名	FRACコード	適用病害虫名										注意事項		
				株腐病	菌核病	黒腐病	黒斑病	黒斑細菌病	黒立枯病	軟腐病	根こぶ病	ピシウム腐敗病	べと病			
マスタピース水和剤	シュートモナス ロテシア	生物農薬	NC			◎		◎			◎					
ミニタン W G	エネオチリウム ミタンス	生物農薬	BM02		◎											
メジャーフロアブル	ビコキシストロビン	ストロビルリン	11	◎	◎									◎	幼苗期に散布すると薬害を生じる場合があるので、使用を避ける。	
モンガリット粒剤	シメコナゾール	SBI	3	◎												
ヨネポン水和剤	ノルフェノールスルホン酸銅	有機銅	M01			◎					◎			◎		
ライメイフロアブル	アミスルフロム	その他	21											◎		
ランマンフロアブル	シアリファイト	その他	21									◎	◎	◎		
リドミルゴールド M Z	マンゼブ・メタラキシル M	混合剤	M03・4											◎		
レーバスフロアブル	マンジプロパイト	アイト	40											◎		
ロブラール水和剤	イプロシオン	ジカルボキシイミド	2	◎	◎											
I C ボルドー 6 6 D	塩基性硫酸銅	無機殺菌	M01								野				野：【野菜類登録】 結球期以降の散布では汚れを生じる場合がある。	

注1) 苗立枯病の対象病原菌の表記 R: *Rhizoctonia*

注2) ミナクタン酢酸塩とミナクタンアパシル塩は、成分が「ミナクタン」として扱われるので、使用の際は有効成分の総使用回数を超えないように注意する。

(15) キャベツ
ア 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	I R A C コード	適 用 病 害 虫 名															注 意 事 項		
				コ	ア	ネ	ア	コ	ハ	ウ	タ	ネ	オ	ヨ	シ	ハ	ア	キ		ネ	ナ
				オ	ザ	ギ	ブ	コ	イ	ワ	マ	キ	オ	ト	ロ	ス	オ	ス		グ	メ
ロ	ミ	ア	ラ	コ	マ	バ	ナ	リ	タ	ウ	イ	モ	ン	ム	ジ	サ	ク				
ギ	ウ	ザ	ム	ガ	メ	ウ	シ	ム	バ	ム	チ	ヨ	ヨ	シ	ノ	レ	ジ				
類	マ	ミ	シ	ガ	イ	バ	シ	シ	シ	シ	ウ	ト	ト	シ	ミ	セ	類				
アクセルフロアブル	メタフルミゾン	その他	22B																		
アクセルベイト	メタフルミゾン	その他	22B	◎							◎										
アクタラ顆粒水溶剤	チアトキシム	ネオニコチノイド	4A				◎														
アクタラ粒剤 5	チアトキシム	ネオニコチノイド	4A				◎	◎	◎						◎						
アグロスリン水和剤	シハルメトリン	ピレスロイド	3A		◎		◎	◎		◎		◎		◎							
アタブロン乳剤	クロルフルアズロン	IGR	15				◎	◎		◎		◎		◎	◎						
アデオン乳剤	ベルメトリン	ピレスロイド	3A				◎	◎		◎	◎			◎							
アドマイヤー 1 粒剤	イミダクロプリド	ネオニコチノイド	4A				◎														
アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド	ネオニコチノイド	4A				◎														
アドマイヤーフロアブル	イミダクロプリド	ネオニコチノイド	4A				◎														
ア ニ キ 乳 剤	レピメクチン	マクロライド	6				◎	◎	◎		◎		◎	◎	◎						
アフームエクセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェニロン	混合剤	6・15			◎		◎	◎		◎		◎	◎	◎						
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩	マクロライド	6				◎	◎		◎		◎		◎	◎						
アベイル粒剤	アセタミプリド・シアントラネリブロール	混合剤	4A・28			◎	◎	◎	◎					◎	◎						
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A				◎	◎	◎						◎						
スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A				◎	◎	◎						◎						
アララ D F	フロニカミド	その他	29				◎														
エスマルク D F	BT	生物農薬	11A			◎			◎												
エビセクト水和剤	チオシクラム	ネオニコチノイド	14				◎	◎							◎						
エルサン乳剤	PAP	有機リン	1B		◎		◎	◎	◎			◎		◎	◎	◎					
オルトラン水和剤	アセフェート	有機リン	1B		◎		◎	◎		◎		◎		◎	◎						
オルトラン粒剤	アセフェート	有機リン	1B		◎		◎	◎		◎		◎		◎	◎						
カウシター乳剤	ハルロン	IGR	15				◎	◎				◎		◎	◎						
カスケード乳剤	フルフェノキサロン	IGR	15		◎		◎	◎		◎		◎	◎	◎	◎						
カルホス微粒剤 F	イソキサチオン	有機リン	1B							◎											
カルホス粉剤	イソキサチオン	有機リン	1B							◎											
ガンバ水和剤	ジアフエンチロン	その他	12A				◎	◎				◎		◎	◎						
キックオフ顆粒水和剤	クロアントラネリブロール・ジノテフラン	混合剤	28・4A		◎		◎	◎	◎			◎		◎	◎						
グリーンベイト	メタアルデヒド・NAC	混合剤	1A	◎							◎						◎				

農薬名	成分名	系統名	IRACコード	適用病害虫名														注意事項	
				コオロギ類	アザミウマ類	ネギアザミウマ類	アブラムシ類	コナガ	ハイマダラノメイガ	ウワバ	タマナギンウワバ	ネキリムシ類	オオタバコガ	ヨトウムシ	シロイチモジヨトウ	ハスモンヨトウ	アオムシ		キスジノミハムシ
グレーシア乳剤	フルキサタミト [®]	その他	30	◎			◎	◎	◎			◎	◎		◎	◎			
コテツフロアブル	カルフェナピル	その他	13				◎	◎		◎		◎	◎	◎	◎				
コナガコン	タ [®] イモル [®]	フェロモン					◎				◎								【コナガ、オオタバコガが加害する農作物等で登録】
コルト顆粒水和剤	ビ [®] リフルキナソ [®] ン	その他	9B			◎	◎												
コンフューザーV	アルミ [®] ル [®] ・ウワ [®] ハ [®] ル [®] ・タ [®] イモ [®] ル [®] ・ア [®] ・ヒ [®] ・ト [®] ア [®] ・ミ [®] ル [®] ・リ [®] ト [®] ル [®]	フェロモン						野		野		野	野	野	野				野：【野菜類登録】コンフューザーVは適当な長さの支柱に4本取り付け、圃場全体に配置し、取り付け位置は地上50～60cmとする。
ジュリボフロアブル	クロ [®] ラ [®] ト [®] ラ [®] ニ [®] リ [®] フ [®] ・ロ [®] ル [®] ・チ [®] ア [®] メ [®] キ [®] サ [®] ム	混合剤	28・4A			◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎		◎	◎			
スピノエース顆粒水和剤	スピ [®] ノサ [®] ト [®]	スピノシン	5		◎			◎	◎			◎			◎				
スラゴ	磷酸第二鉄	天然物由来																◎	【ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等で登録】
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A					野				野	野	野	野	野			野：【野菜類登録】
ダントツ水溶剤	クロ [®] チ [®] ア [®] ニ [®] ジ [®] ン	ネ [®] コ [®] チ [®] ノ [®] イ [®] ト [®]	4A		◎			◎								◎			
ダントツ粒剤	クロ [®] チ [®] ア [®] ニ [®] ジ [®] ン	ネ [®] コ [®] チ [®] ノ [®] イ [®] ト [®]	4A			◎	◎	◎		◎						◎			
チューンアップ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A					野	野			野	野			野			野：【野菜類登録】
デア [®] ア [®] ナ [®] S [®] C [®]	スピ [®] ノサ [®] ト [®] ラ [®] ム	スピノシン	5		◎			◎	◎		◎	◎		◎	◎				
デナボン5%ベイト	NAC	カーバメート	1A	◎						◎					◎				
デルフィン顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A					野				野		野	野	野			野：【野菜類登録】
トクチオン乳剤	フ [®] ロ [®] チ [®] オ [®] ス	有機リン	1B				◎	◎				◎		◎	◎				
トランスフォームフロアブル	ス [®] ル [®] ホ [®] キ [®] サ [®] フ [®] ル	その他	4C			◎	◎												
トルネードエースDF	イ [®] ン [®] ト [®] キ [®] サ [®] ル [®] フ [®]	その他	22A					◎	◎	◎			◎		◎	◎			
トレボンエアー	エ [®] ト [®] フ [®] ア [®] ン [®] ・ロ [®] ク [®] ス	ヒ [®] レ [®] ス [®] ロ [®] イ [®] ト [®]	3A				◎					◎			◎				無人航空機登録
トレボン乳剤	エ [®] ト [®] フ [®] ア [®] ン [®] ・ロ [®] ク [®] ス	ヒ [®] レ [®] ス [®] ロ [®] イ [®] ト [®]	3A			◎	◎					◎			◎				
ナメクリーン3	メ [®] タ [®] アル [®] テ [®] ・ヒ [®] ト [®]	その他																◎	
ネキリエースK	イ [®] ソ [®] キ [®] サ [®] チ [®] オ [®] ン	有機リン	1B							◎									
ネマキック粒剤	イ [®] ミ [®] シ [®] ア [®] ホ [®] ス	殺線虫	1B														◎		
ノーモルト乳剤	テ [®] ル [®] ハ [®] ・ン [®] ズ [®] ・ロ [®] ン	IGR	15				◎			◎		◎		◎	◎				
ハクサップ水和剤	フ [®] ェ [®] ン [®] ・ハ [®] ・レ [®] ・ト [®] ・マ [®] ラ [®] ソ [®] ン	混合剤	3A・1B				◎	◎		◎		◎	◎		◎	◎			
パダンSG水溶剤	カル [®] タ [®] フ [®]	ネ [®] イ [®] スト [®] キ [®] ン	14				◎	◎	◎						◎				◎
ハチハチ乳剤	トル [®] フェ [®] ン [®] ・ヒ [®] ・ラ [®] ト [®]	その他	21A		◎		◎	◎	◎						◎				
ファインセーブフロアブル	フ [®] ロ [®] メ [®] キ [®] ン	その他	34		◎			◎											
ファルコンフロアブル	メ [®] キ [®] ン [®] ・フ [®] ェ [®] ノ [®] ジ [®] ト [®]	IGR	18				◎	◎		◎		◎	◎		◎	◎			

農薬名	成分名	系統名	IRACコード	適用病虫害名																注意事項	
				コオロギ類	アザミウマ類	ネギアザミウマ類	アブラムシ類	コナガ	ハイマダラノメイガ	ウワバ	タマナギンウワバ	ネキリムシ類	オオタバコガ	ヨトウムシ	シロイチモジヨトウ	ハスモンヨトウ	アオムシ	キスジノミハムシ	ネグサレセンチュウ類		ナメクジ類・マイマイ類
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジダミド	ジダミド	28					◎	◎	◎					◎	◎					
フォーラス粒剤	テフルリン	ピレスロイド	3A							◎											
プリロッソ粒剤	シアントラニプロール	ジダミド	28		◎		◎	◎								◎					
プリンス粒剤	フィプロニル	フェニルピラゾール	2B					◎	◎												
プレオフロアブル	ピリダリル	その他	UN			◎		◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎					
プレバソフロアブル5	クロラントラニプロール	ジダミド	28					◎	◎	◎		◎	◎		◎	◎					
プレパソソ粒剤	クロラントラニプロール	ジダミド	28					◎	◎							◎					
ブロフレアSC	プロフェニト	その他	30					◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎					
ベネビアOD	シアントラニプロール	ジダミド	28		◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎					1. ストメ®ルリン系薬剤を含む農薬および銅剤との混用はしない。2. 展着剤は加用しない。		
ベリマークSC	シアントラニプロール	ジダミド	28		◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎							
ボタニガードES	ホーペリアバシアナ	生物農薬	UNF												◎						
マイキラー	メタルデヒト	その他																◎			
マツチ乳剤	ルフェスロン	IGR	15					◎	◎				◎		◎	◎					
マトリックフロアブル	クロマフェノジド	IGR	18						◎						◎						
マブリック水和剤20	フルバリネート	ピレスロイド	3A				◎			◎				◎	◎						
マイクロデナポン水和剤85	NAC	カーハート	1A										◎	◎	◎						
ミネクトデュオ粒剤	シアントラニプロール・チアメキサム	混合剤	28・4A		◎		◎	◎	◎							◎					
モスピランSL液剤	アセタミプリド	ネオニコチノイド	4A				◎	◎								◎	◎				
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	ネオニコチノイド	4A		◎		◎	◎								◎	◎				
モスピラン粒剤	アセタミプリド	ネオニコチノイド	4A				◎	◎	◎						◎	◎					
モベントフロアブル	スピロテトラマト	その他	23		◎		◎	◎							◎						
ヨーバルフロアブル	テトラニプロール	ジダミド	28		◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎						
ランネート45DF	メソジル	カーハート	1A				◎	◎		◎			◎	◎							
リーフガード顆粒水和剤	チオシクテム	ネイストキシ	14		◎		◎	◎	◎						◎				◎		

(15) キャベツ
ウ 土壌消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名											注 意 事 項
			ケ ラ	ネ キ リ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ハ リ ガ ネ ム シ 類	セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	萎 黄 病	苗 立 枯 病	根 こ ぶ 病	バ ー テ イ シ リ ウ ム 萎 凋 病	
ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤	ダゾメット	I:8F							◎	◎	◎	◎	◎	
キ ル パ ー	カーハムナトリウム塩	I:8F											◎	◎
ク ロ ー ル ピ ク リ ン	クロルピクリン	I:8B	◎	◎		◎	◎			◎			◎	
ク ロ ピ ク 8 0	クロルピクリン	I:8B		◎		◎	◎			◎				
ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	クロルピクリン	I:8B		◎		◎	◎			◎				
ク ロ ピ ク テ ー ブ	クロルピクリン	I:8B										◎		
ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤	クロルピクリン	I:8B				◎			◎	◎				
ソ イ リ ー ン	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A					◎	◎			◎			
デ ィ ・ ト ラ ペ ック ス 油 剤	メチルイソチオシアネート・D-D	I:8F・8A				◎			◎			◎	◎	
テ ロ ン D C 油 剤 D ー D N C S	D-D	I:8A		◎			◎	◎						
	カーハム	I:8F										◎	◎	

注) 苗立枯病の対象病原菌の表記 R:Rhizoctonia

(15) キャベツ
エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コ ー ド	使用目的	注 意 事 項
キルパー	カーバムトリウム塩	8F	前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止	使用目的以外での 使用不可
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のアザミウマ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのコナジラミ類蔓延防止	
			前作のイチゴのネグサレセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止	
			前作のナスのフザリウム立枯病の蔓延防止	
			前作のねぎの収穫残渣に寄生したクロバネキノコバエ類蔓延防止	
			前作のキュウリの褐斑病の蔓延防止	

オ 病虫害防除法（キャベツ）

（ア）株腐病 *Thanatephorus cucumeris*（不完全世代 *Rhizoctonia solani*）

（防除のねらい）

初夏どりの作型で収穫期に発生が多い。子実層上で形成された担子胞子が飛散し伝染源となるほか、苗立枯病の場合と同じく菌糸や菌核で土中に残りこれから感染する。結球、収穫期に降雨が連続すると発病が助長される。結球はじめから防除薬剤を散布する。

（耕種的防除法）

- （1）ほ場の水はけをよくする。
- （2）常発地では連作を避ける。

（イ）菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

（防除のねらい）

早春から5月頃にかけて、生育後期に発生が多く、気温が20℃前後で曇雨天が続いたときに発生しやすい。土中の菌核が第1次伝染源となるので、ほ場内に菌核を増やさないことが大切である。また、好気性菌であり、空気の多い土壌の表層でしか生存しない。

（耕種的防除法）

- （1）発病株は早めに取り除き、収穫後に残った茎葉も取り除く。
- （2）常発地では連作を控え、ナタネやレタス、インゲンなど本病が発生しやすい作物の輪作を避ける。
- （3）作付前に天地返しを行い、地表の菌核を土中深く埋め込む。

（ウ）黒腐病 *Xanthomonas campestris* pv. *campestris*

（防除のねらい）

（耕種的防除法）

}] ダイコンの項参照

（エ）黒斑病 *Alternaria brassicae*

（防除のねらい）

（耕種的防除法）

}] ハクサイの項参照

（オ）黒斑細菌病 *Pseudomonas syringae* pv. *maculicola*

（防除のねらい）

（耕種的防除法）

}] ハクサイの項参照

（カ）苗立枯病 *Rhizoctonia solani*, *Pythium megalacanthum*

（防除のねらい）

リゾクトニアによる苗立枯病は、9～11月の高温期に被害が多い。被害植物とともに土中に入り、あるいは被害植物の組織内で、長く生存して土壌伝染する。ピシウムによる苗立枯病は、11～3月の低温期での育苗で被害が多い。健全な土壌を使用することと適正な水分管理が重要である。菌の種類によって薬剤の効果が異なるので留意する。

（耕種的防除法）

- （1）土壌伝染を防ぐために、土壌消毒済みの培土や資材を使う。
- （2）過湿を避けた水管理を行う。

（キ）軟腐病 *Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*

（防除のねらい）

（耕種的防除法）

（化学的防除法の注意事項）

}] ハクサイの項参照

（ク）ピシウム腐敗病 *Pythium aphanidermatum*, *Pythium* sp., *Pythium ultimum*

（防除のねらい）

セル成型苗で発生が多くみられ、夏期の高温期に被害が多い。定植直後に発生が確認されることもある。セル育苗では、灌水、トレイ下のパットの凹凸、密植等により湿度が高まりやすく、病害が発生しやすい条件下にあるため、健全な土壌を使用することと適正な水分管理が重要である。

(耕種的防除法)

- (1) 土壤伝染を防ぐために、必ず消毒済みの培土や資材を使う。
- (2) 防根シート等を使用し、周辺土壌からの病原菌の侵入を防ぐ。
- (3) 過湿を避けた水管理を行う。

(ケ) ベと病 *Peronospora parasitica*

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

] ハクサイの項参照

(コ) モザイク病 TuMV, CMV

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

] ダイコンの項参照

(サ) アザミウマ類・ネギアザミウマ

(防除のねらい)

ネギアザミウマ等が突発的に加害する事例があり、春季～初夏に被害が多い。加害により結球内部の葉までシミ状の加害痕となり商品性が著しく低下する。高温、乾燥は発生に好適にはたらく。防除は周辺作物での発生状況に注意して加害初期に行う。

(シ) アブラムシ類

(防除のねらい)

主にモモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシの吸汁による直接的な被害が多いが、幼苗期のモザイク病を媒介することも問題となるので、育苗、生育初期での有翅成虫の侵入防止を重点に行う。

(耕種的防除法)

- (1) 障壁作物を栽培する。
- (2) 育苗床は寒冷紗で被覆する。

(ス) コナガ

(防除のねらい)

年間の発生回数が多く、増殖力が高いため、好適条件下では、急激に密度が増加する。また卵、蛹に対し有効な薬剤は極めて少なく、さらに薬剤抵抗性の発達が著しい害虫として知られている。

このような性質を有するコナガの防除は、密度が高くなってからは困難であり、また同じ薬剤の連用はその薬剤に対する抵抗性をつけさせることになる。そこで、育苗時の防除や定植時の粒剤処理に努めることで、生育初期の密度を抑え、その後30日頃から系統の異なる薬剤をローテーション散布するという防除体系が望ましい。

(耕種的防除法)

- (1) 収穫後の残渣処理を早く行い、徹底してほ場衛生管理に努める。
- (2) 育苗床や本圃における被覆資材の利用は効果が高い。

(セ) ハイマダラノメイガ (シンクイムシ類)

(防除のねらい)

ダイコンの項参照。

(ソ) タマナギンウワバ

(防除のねらい)

ハクサイの項参照。

(タ) ネキリムシ類

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

] ハクサイの項参照

(チ) オオタバコガ
(防除のねらい)

発生は8～10月に多く見られ、高温、乾燥は発生に好適にはたらく。防除はふ化直後の幼虫を対象に行う。

(ツ) ヨトウムシ
(防除のねらい)

春(4～5月)と秋(10～11月)に発生する。薬剤は老齢幼虫に対して効果が劣るので、防除は発生初期(白い食痕が見え始める頃)に行う。

(テ) シロイチモジヨトウ
(防除のねらい)

被害は8～10月に多く見られる。防除はふ化直後の幼虫を対象に行う。

(ト) ハスモンヨトウ
(防除のねらい)

ハクサイの項参照。

(ナ) アオムシ(モンシロチョウ)
(防除のねらい)

発生は春～初夏(3～6月)と秋(9～11月)に多い。発生時期や量は成虫の飛来、産卵状況で推定し、防除はできるだけ若齢期をねらう。発生が長期間に及ぶので、薬剤散布は同時に発生するコナガ、ヨトウムシ類を考慮して選定する。

(ニ) キスジノミハムシ
(防除のねらい)

ダイコンの項参照。土壌病害の発生誘因になることがある。

(ヌ) コオロギ類
(防除のねらい)

ハクサイの項参照。

(ネ) ナメクジ類(アシヒダナメクジ)・マイマイ類
(防除のねらい)

奄美群島全域に発生している。夜行性で日没後、地表にでて摂食するので、ほ場の周辺に敷草誘引帯を作り、薬剤施用の効果を高める。